寫眞週報

情報局編輯
十月廿日・第二百九十四號・十セン

今ぞ學徒蹶起の秋

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

君、學徒は醜の御楯といでたつ
強靱な五體に
精悍の闘魂をたぎらせ
皇國の隆替を双肩に擔うて—

學業に訣別し
名もいらず
命もいらず
ただ莞爾と微笑む君が顏
悠久の大義に徹した丈夫（ますらを）を見る

（學徒に寄す）

「時の立札」は他へ轉載その他に御利用下さい

社頭に出陣の誓ひ

靖國神社秋の臨時大祭厳かに執り行はる

ハワイ眞珠灣頭に花と散つた九軍神以下一万九千九百九十二柱の英靈神鎭（しず）まります靖國神社秋の臨時大祭は、十月十四日の招魂式に引續き、十五日から二十日まで厳（おごそ）かに執り行はせられた

一億國民が心からの黙禱を捧げ、護國の英靈に報い奉らんと、前線に職場に敢闘（たたか）を誓ひ、必勝の信念を固めた中にも、ひとしほ深い感激を以てこの日を迎へたのは、全國の學徒である。待ちに待つた學徒出陣の命は下り、空に志願した學徒の先陣は、すでに陸海の荒鷲として猛訓練をうけてゐる。續く學徒は、いまや醜の御楯（みたて）といでたつ準備におこたりない。こゝ靖國の社頭にも、母とその子の出陣に誓ふ敬虔な姿がある。護國の神々も御照覽（ごしらん）あれ、學も棄て名もいらぬ、たゞ父祖の勳をついで、死ぬ道を見つけた日本男兒の尊い姿を

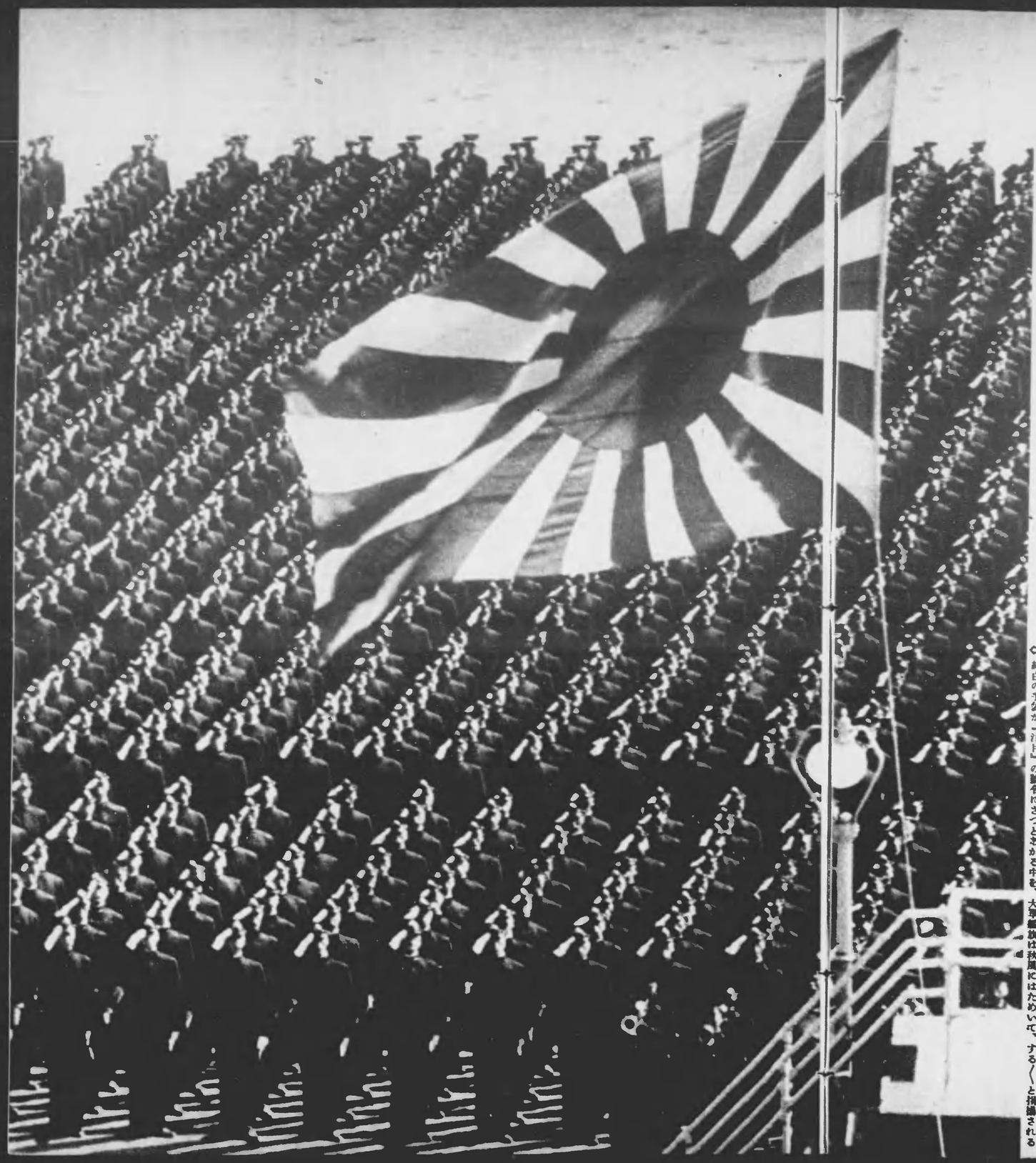
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

今日よりはれて飛行豫備學生

『第〇期飛行專修豫備學生を命ず、第〇期一般專修豫備學生を命ず』九月十日、十三日に假入隊し、綿密な適性檢査後、實戰を繰り込んだ月月金金の猛訓練をうけ、見ちがへるやうに逞しく求敵必滅の闘志を培つた學鷲は、全學徒戰闘配置につけの號令下つたばかりの十月四日、土浦において入隊式に際し、長くも〇〇聯合航空隊司令官海軍少將久邇宮朝融王殿下御みづからの命課傳達、更に御訓示を賜はつて、こゝに學鷲は晴れの帝國海軍航空隊員となつた

南海の決戰場から歸つた海鷲の教官に教へられ、鍛へられ、先輩の生々しい空戰の體驗と烈々たる氣魂とを身につけて學鷲が太平洋の空の決戰に出撃する日は近い

學徒總進軍のとき、先陣學鷲に續いて空へ征かう。敵の非望を破摧し、皇國を富嶽の安きにおくは、君達學徒の双肩にかゝつてゐるのだ



土浦海軍航空隊の學鷲入隊式

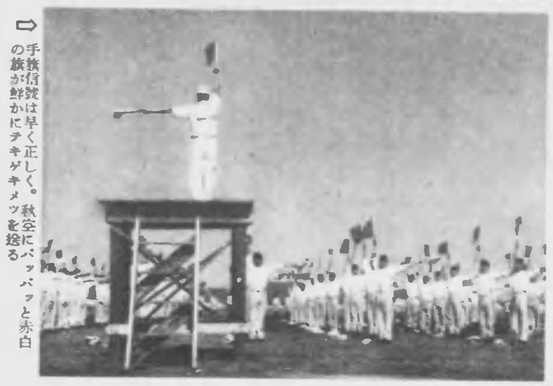
⇧〇〇聯合航空隊司令官久邇宮朝融王殿下畏くも豫備學生に御答礼を賜ふ

⇦純白の手袋が『注目』の號令にさつとあがる中を、大軍艦旗は秋風にはためいて、するゝ〜と掲揚される

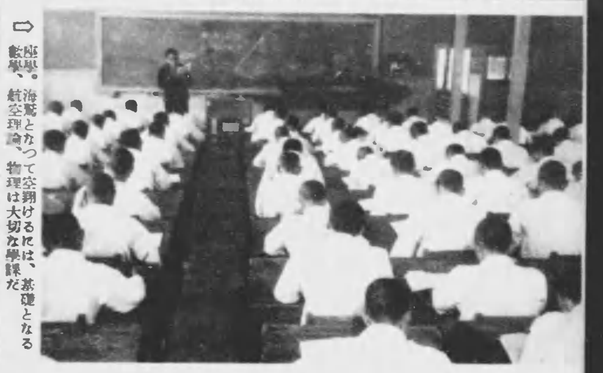
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

⇨正しい教練は帝國海軍軍人の心構への第一だ。教官に教へられて知る、簡單な敬禮のむづかしさ

⇨短艇の操作も、海鷲の第一歩。早く學び早く決戦場へ征かんものと手帳を片手に練習學生は真剣だ



⇨手旗信號は早く正しく。秋空にパッパッと赤白の旗が鮮かにチキゲキメツを捻る



⇨極學。海鷲となつて空翔けるには、基礎となる飛學、航空理論、物理は大切な學課だ

⇨最初精密な構造に驚くだけだつた學徒も、今は教官の號令に寸毫早く砲の照準を合はせるのだ

大東亞戦爭日誌

八　月

十五日　●帝國海軍航空部隊は八月十二日以來、ガダルカナル島方面より西進せる敵輸送船團および護衛艦艇の行動に關し警戒中のところ、十四日夜來ベララベラ島方面に進出よりこれに對し反復攻撃を實施し、左の戦果を得たり

(一)　第一次攻撃機隊はベララベラ島南岸附近において敵戦闘機約五十機に護られつゝ接岸中の敵輸送船團に對し攻撃を敢行し、大型輸送船一隻を轟沈、大、中型輸送船三隻を炎上、戦闘機十三機を撃墜せり

(二)　第二次攻撃機隊は右輸送船團を再度攻撃し、敵戦闘機の抵抗を排除しつゝ大型輸送船二隻、上陸用舟艇一隻を撃沈、大型輸送船一隻、大型駆逐艦一隻、海上トラック一隻にそれ〴〵至近弾、上陸用舟艇約十隻に銃撃を加へ、敵戦闘機十一機を撃墜せり

(三)　第三次攻撃機隊は敵戦闘機と交戦しつゝ敵掩護船附近を攻撃し、巡洋艦一隻に至近弾一發、陸上二箇所炎上、敵戦闘機四機を撃墜せり

(四)　第四次攻撃機隊はシンボ島南方十浬および同東十五浬の海面において敵輸送船團を攻撃し、大型駆逐艦一隻を撃沈、駆逐艦一隻を撃破せり

(五)　敵の後續輸送船團の攻撃に向へる別働攻撃機隊は八月十五日夜半ガッカイ島東方十浬の海上において敵輸送船團を發見、雷撃により大型巡洋艦一隻を轟沈、大型輸送船一隻、輔巡洋艦または大型駆逐艦一隻を撃沈せるほか、巡洋艦、駆逐艦各一隻にそれ〴〵魚雷一本を命中せしめたり

(六)　右各攻撃における我が方の損害、自爆未歸還を合はせ十七機

十六日　●我が航空部隊は八月十五、十六日の兩日ラエ西方七十キロのファブバ飛行場を攻撃し、空中戦により敵機三十九機(うち不確實七)を撃墜、對地攻撃により同五機を爆破炎上せしめたり。我が方四機未だ歸還せず

二十二日　●キスカ島守備の帝國陸海軍部隊は、何等敵の妨害を受ることなく、七月下旬全兵力の撤收を完了し、既に新任務に就きあり

二十三日　●支那方面我が航空部隊は、八月二十三日重慶および萬縣を攻撃せり。戦況次きの如し　(一)　十二時三十分重慶に進攻、工場地帶を爆破炎上せしめたるほか重慶東郊戦闘機十數機と交戦、その八機(うち不確實三)を撃墜せり。我が方一機未だ歸還せず　(二)　十二時二十七分萬縣に進攻、埠頭および軍事施設を爆破炎上せしめたると共に大型船舶一隻を撃破、小型數隻を撃沈し、全機無事歸還せり

二十四日　●支那方面我が航空部隊は、八月二十四日萬縣および宜昌西方二斗坪附近に進攻すると共に、武漢地區に來襲せる敵機を邀撃せり。戦況次きの如し　(一)　萬縣の埠頭軍需品集積所および敵船舶を爆破炎上せしめたり　(二)　三斗坪附近揚子江上の敵船舶を攻撃し、その一隻を撃沈、二隻を撃破せり　(三)　武漢地區に來襲せる敵機二十數機を邀撃し、その十機(うち不確實二)を撃墜せり　(四)　我が方の損害、自爆および未だ歸還せざるもの各一機なり

二十五日　●ニューギニア島およびベラベラ島を中心とする南太平洋方面の戦局は敵の燃烈なる反攻とこれに對する我が猛烈なる反撃と相俟つて、日と共に激化の一途を辿りつゝあり

(一)　ニューギニア島　帝國陸海軍守備隊は六月二十日以來上陸し來れる敵數万に實勢をもつて邀撃、爾來これを撃推して其大なる打撃を與へ、目下北方海岸地區およびハイロ地帶において激戦中なり

(二)　ベラベラ島　去きに上陸を企圖せる敵に帝國海軍航空部隊の反復攻撃によりその輸送船の多數を失ひ、僅かにその一部兵力のビロア上陸に成功せるに過ぎざりしも、爾後

徴集延期制度を撤廢
學生動員の決戦態勢成る

今回の徴集延期制度の撤廢は、皇軍の決戦完遂力を強化するため、最も素質の優秀な、また素養の高い學徒を動員することにあるが、一部には特例を設けて入營延期される。即ち

1　理工科系統(大學理工學部、大學學科、高等學校理科、專門學校の工業關係學科)

2　醫科(大學醫學部、醫科專門學校、學部及一部の科の必要な學科)

3　農科系統の一部(農學、農林化學、畜産學、獣醫學、農林化學、畜産學、獣醫學科)

4　高等水産學校の輸送運航に關する技術關係の學科

5　普通教育の教員養成に必要なる文理科大學、高等師範學校、師範學校、臨時教員養成所、實業教員養成所、青年學校教員養成所などの學科

といつたもので、これも現在、理工科系統すべてをあげても、要員が不十分なため、殖したものである。つまり、このほかの文科系統は、直接戦力の強化となる第一線部隊の動員される

また、學徒を学ぶ者より戦列に加はるものが目的であるから、臨時徴兵檢査は十月十五日から十一月五日までに全國各地で行はれる。なお朝鮮、台湾、關東州、南洋諸島である者は現地で徴兵檢査をうけ、また海外にある者も徴兵身體檢査だけは現地で受けられる。萬一、檢査期間の十月二十五日以内に學徒出陣に到起した東京帝國大學は法、文、農、經の各學部ごとに、十月六日から十五日間、毎日午後一時と三時の二回體操と駈足を行つて、檢査まで壯丁訓練をしてゐる。少しでも體を鍛へ、全員甲種合格を目指す學徒の決意は、駈足の後に一同が唱和する「海ゆかば」の響きにも力強く現はれた

かうして十月一日に甲種と第一、第二乙種と丙種とに分類された入營、第一乙種と丙種は現役兵として入營、第二乙種は補充兵として入營される。海軍の入營期日は十月十日の見込である

かくて陸軍に入營した大學生は、士官候補者に採用され、要に応じて各部隊補充兵となり、一年數ヶ月で將校となる。海軍では海兵團入團後、半年以内に

學徒出陣に到起した東京帝國大學は法、文、農、經の各學部ごとに、十月六日から十五日間、毎日午後一時と三時の二回體操と駈足を行つて、檢査まで壯丁訓練をしてゐる。少しでも體を鍛へ、全員甲種合格を目指す學徒の決意は、駈足の後に一同が唱和する「海ゆかば」の響きにも力強く現はれた

となる。海軍では海兵團入團後、半年以内に練習生となり、一年數ヶ月で將校となる。陸軍では學徒練習軍の秋は來たのであるから、入營を延期せられた學生は一種令部隊軍に所屬し、卒業後に陸海軍へ入れられるが、終學を卒業前にやめれば、入營することとなる

入營を延期された學生は、場合によつては修學中でもすぐ軍に入り得る狀態で國家の要求する研究をつゞけてゐるのであつて、いはゞ軍服を着て軍の學校に入つてゐるのである。だから次きの任務のため直ちに軍隊に轉學なる。敵に一大鐵槌を加へるこの一撃學徒に中学ないことになる

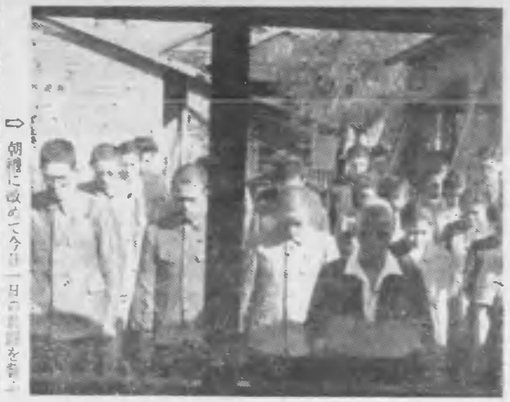
陸に海に學徒として先輩の果たつを敵送る學徒に、力強い美撃路は開かれた。學徒に對する徴集延期制度の撤廢こそ、陸門から海門へ、更に決戦場へ直接通ずる道である。今こそ、大君の御為に、皇國の為には、まつぐな光榮のときは來た。學徒練習軍の秋は來たのである。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

翼にうちこむ再起の鬪魂

傷痍軍人出征遺家族
特設航空機製作工場

福岡市



⇨ 朝禮に改めて今日一日の奮闘を誓ふ

⇨ 今日も大いに頑張るぞと足も輕く門を入る女工員たちを親切に指導する傷痍の男工員　右頁上

お國に手を足を捧げた傷痍の勇士や、戰線へ兄を夫を送つた家族たちの中にも、航空決戰の現實に應へて、戰ふ職場の人々に立ち混つて生産增强に粉骨砕身する逞しい姿を見受けますが、こゝに紹介する福岡市妙瀧町の山内航空機工場は、この空襲勇士と出征遺家族たちのために設けられた三菱戰鬪機製作所に先駆つけた特殊工場ともいへませう

目下のところは若鷲の鍛成に不可缺の練習機を造つてゐますが、やがては空の決戰場につたかる作業に、工場一家となり、ともゝにいたはり扶け勵まし合つて、たぎり立つ烈々の闘魂を一機一翼の製作に打込んでゐます

⇨ 黙々に精魂を打ちこむ

⇨ 傷痍者の奮持になつて一孔々々を丁寧に合理化した

⇨ 傷痍軍人出征遺家族の男工員と相擁して勇士たちの闘魂に感奮する

⇨ 空ゆく翼をひつぱり胸に描いて、女工員と主婦の部分をみがく

執拗なる敵力增强に努めつゝあり

帝國陸海軍守備部隊の勇戰奮闘と相俟ち、海軍航空部隊並びに海上部隊は敵兵力增强の阻止擊滅に努め、兩島附近の上空および海上において連日書夜の別なく敵と交戰し、大なる打撃を與へるとともに、敵反攻の勢ひは侮り難きものあり

三十一日　●（一）ニューギニア島サラモア附近の我が部隊は六月三十日以降ナツウ灣およびワウ附近より優勢なる空軍支援の下に前進せる敵をカミタアム、ムボ、ナツウ灣の線において邀撃し、これに大打撃を與へたる後、日下サラモア周邊地區において激戰中なり。右期間敵に與へたる損害、戰死傷五千六百以上なり

（二）ニューギニア方面我が航空部隊また地上戰鬪に協力すると共にベナベナ、ラエ、パプア等の敵航空基地に進攻し、或ひは敵機の來襲を邀撃し、熾烈なる戰鬪を繰續中なり。同期間敵機二百五十八機（うち不確實五十三）を撃墜せり。我が方の損害百三機なり

九月

一日　●本日未明敵機多數南鳥島に來襲、なほ敵は艦砲をもつて砲撃を砲撃せり

二日　●南鳥島に對する昨一日の敵襲に關してその後判明せるところによれば、來襲せる敵は航空母艦を基幹とする機動部隊にして、戰艦延約百五十機をもつて地上施設を攻撃せるものなり。この間敵に與へたる損害、撃墜一機。我が方地上にありたる味方機に多少の損害ありしも人員および施設の損害は極めて輕微なり

●九月二日來襲、約四十機ニューギニア島ウエワクに來襲、同港に碇泊中の我が輸送船を攻撃せり。我が戰鬪機隊および地上火器これを邀撃し、その十九機を撃墜せり。我が方輸送船一隻沈没す

三日　●ニューチョージア島コロンバンガラ島およびベララベラ島をめぐるソロモン方面その後の戰況は依然激烈なり

（一）ニューチョージア島ムンダの北方海岸地區および西バイロコ地區に敵、交戰せし帝國海軍守備部隊は大なる打撃を與へつゝありしが、八月二十八日以降コロンバンガラ島および西ニューチョージア島の中間島嶼地區にて激戰中なり

（二）ベララベラ島においては未だ地上戰鬪行はれず、敵は依然として兵力の增强を計りつゝあり

●所在帝國海軍航空部隊、海上部隊および陸上部隊の奮鬪による八月中の戰果左の如し

（一）敵に與へたる損害

撃破　大型　一
撃破　中型　一
撃破　小型　一
撃破　輸送船　一
撃破　巡洋艦　一
撃破　駆逐艦　一
撃破　輸送船　一
撃破　巡洋艦又は大型輸送船　一
撃破　駆逐艦　一
撃破　輸送船　一
撃破　その他舟艇　一
撃破　飛行機　二

右のほか地上における敵の戰死傷約三千を下らず

（二）我が方の損害

沒沒　大破　自爆および未歸還

輕巡洋艦　一
駆逐艦　一
小型舟艇　四
飛行機　二

四日　●（一）九月四日早朝敵は有力なる輸送船團をもつてニューギニア島ラエ東方三十五キロ、ホポイ附近に上陸を開始せり

（二）我が陸海軍航空部隊は直ちに出動、緊密なる協同の下に敵上陸地點附近および海上において敵を攻撃中にして、現有までに判明せる戰果次の如し。敵輸送船六隻、巡洋艦一隻および駆逐艦五隻および駆逐艦一隻を撃破、輸送船五隻および駆逐艦一隻を撃破炎上せしめ、戰鬪機一七機を撃墜せり。我が方の損害、自爆および未歸還九機なり

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

臨検隊記

海軍上等兵曹　田中正治

配置につけのバザーが鳴つた。低くそれだけ不氣味にうなりつゞけるバザーの音が、遠く紗外に流れ出るかと思ふほど、夜も靜かであつた。

『一番砲塔よし』

『二番砲塔よし』

『水雷砲塔よし』

次ぎ〳〵と傳けられてくる整備報告にうなづきながら、艦長は意氣を張りつめた右舷見張にふりかへつた

『船影は』

『今右四十度、〇千、方位角右二十度、ちかづかに近よりました』

『のがさずに、つかまへてをれ』

最後の方の言葉を、半分口の中にをさめるやうに艦長は、正面のコンパスに向き直つた

一

暗くしつとりと濕れた夜の氣配だつた。〇〇もとう使くないこの海面の艦長は、激しい爆發を秘めてゐるこゝろで、艦橋をゆるがせてくる機關の振動も、たゞ正確の知れぬ敵にじり〳〵と近ふ、あせり切つた人の息づかひとも思へた

二番砲塔から眼をはつした艦長は、左にくるゝと立派とぎこ位に整派な口髭を、なでることもなくたてた

『もう少しこの様子を見て、機銃と灯標（探照灯）の外は閉めなさい』

凝視けとアルコールを焼けをつきませた章旗の砲術長も、艦長の方にむきなほつた

『さうだね』

二番砲塔から眼をはつした艦長は、左にくるゝと立派とぎこ位に整派な口髭を、なでることもなくたてた

『もう少しこの様子を見て、機銃と灯標（探照灯）の外は閉めなさい』

凝視けとアルコールを焼けをつきませた章旗の砲術長も、艦長の方にむきなほつた

『さうだね』

二番砲塔から、すこし腰をかがめた。追ひつめられた思ひが見えてきて、ふつと眼の前が明るくなつた。敵でも味方でもよい。とにかく自分が最初に向ふの船に乗り乗ることだ。危險も何も、それによつて解決がつく

『櫂上げ、櫂立て。櫂をこぐ』

怪力でカッターは水足にすゝんだ。相當ひどく外舷にカッターが接觸した瞬間、兵曹長は立ち上つた。軍刀を腰からぶらんとふ

をはせると、外舷の横木に背足をかけて、尻上りの要領で兵曹長の身體は、向ふの甲板に移つてゐた。接觸の時のゆれと兵曹長が船に移つた反動で、激しくがぶるカッターの中に、思ひがけなく指揮官に先をこされた艇員達は、一齊に立ち上ると鉤を手繰りにして、身を移して來た

重油と魚臭が妙な工合に混合して、なまぬるゝかい空氣をつくり出してゐた

（人がゐる。後部の甲板に人がゐるぞ）

足をふんばつた兵曹長は、携帶灯を船尾になげてさしつけた。人だ。一隅に折れたキャロッタの横に七、八人。半裸によごれきつた手拭で鉢巻をしめた男達が、魚臭い手に鬼丁、スタンションらしい機械、中には日本刀さへ身構へなかも、圓形の光の中に眼をひからしてゐた

（日本人だ）

兵曹長も兵隊も、幾分は豫期してゐたことゝはいひながらとして

ゞなりとも知つて置きたいのだ

『分らんな。どうせ、あまり武裝はない船だらう』

太田兵曹はあらたまつたやうに近寄つた船影をすかしこんだ。あるひは激戰をくりかへしてゐるガダル島附近からまよひ出た敵の海上トラックか何かではなからうか。それでもないとすると、敵か味方かの漁船のわけだが

『しかし、味方の漁船などとすると、手荒い冒險ですな』

『さうだ、船もこまかいし、武裝もしてゐないわけだからな』

『味方の漁船も相當に、遠くまで動いてゐる話でしたが』

『さうだな。さういへば太田兵曹の家も、漁船を持つてゐるんだつたな』

『いや、漁船といつてもほんの名ばかりで』

ほんの瞬間ではあつたが、太田兵曹は大漁旗を揭げた船の、白いしぶきを眼前に見た

船がせまつて來た。兵曹長は固くなり勝ちの自分を、太田兵曹との對話によつて幾分はすくはれたとも考へたが、いざとなつた時の自分の態度に自信がもてなかつた。せめて敵か味方かそれさへ分つてゐたらと、負けをしみにつぶやくのだ

船はぐつとせまつて來た。木造の船だ。白く塗り上げた船體の一部が、夢の中の物語のやうに、ほの白く浮き上つてゐた。じり〳〵として來た兵曹長は、艇指揮の位置から、すこし腰をかがめた。

『分らんな。どうせ、あまり武裝はない船だらう』

太田兵曹はあらたまつたやうに近寄つた船影をすかしこんだ。あるひは激戰をくりかへしてゐるガダル島附近からまよひ出た敵の海上トラックか何かではなからうか。それでもないとすると、敵か味方かの漁船のわけだが

『しかし、味方の漁船などとすると、手荒い冒險ですな』

『さうだ、船もこまかいし、武裝もしてゐないわけだからな』

『味方の漁船も相當に、遠くまで動いてゐる話でしたが』

『さうだな。さういへば太田兵曹の家も、漁船を持つてゐるんだつたな』

『いや、漁船といつてもほんの名ばかりで』

ほんの瞬間ではあつたが、太田兵曹は大漁旗を揭げた船の、白いしぶきを眼前に見た

船がせまつて來た。兵曹長は固くなり勝ちの自分を、太田兵曹との對話によつて幾分はすくはれたとも考へたが、いざとなつた時の自分の態度に自信がもてなかつた。せめて敵か味方かそれさへ分つてゐたらと、負けをしみにつぶやくのだ

船はぐつとせまつて來た。木造の船だ。白く塗り上げた船體の一部が、夢の中の物語のやうに、ほの白く浮き上つてゐた。じり〳〵として來た兵曹長は、艇指揮の位置から、すこし腰をかがめた。追ひつめられた思ひが見えてきて、ふつと眼の前が明るくなつた。敵でも味方でもよい。とにかく自分が最初に向ふの船に乗り乗ることだ。危險も何も、それによつて解決がつく

『櫂上げ、櫂立て。櫂をこぐ』

怪力でカッターは水足にすゝんだ。相當ひどく外舷にカッターが接觸した瞬間、兵曹長は立ち上つた。軍刀を腰からぶらんとふ

をはせると、外舷の横木に背足をかけて、尻上りの要領で兵曹長の身體は、向ふの甲板に移つてゐた。接觸の時のゆれと兵曹長が船に移つた反動で、激しくがぶるカッターの中に、思ひがけなく指揮官に先をこされた艇員達は、一齊に立ち上ると鉤を手繰りにして、身を移して來た

重油と魚臭が妙な工合に混合して、なまぬるゝかい空氣をつくり出してゐた

（人がゐる。後部の甲板に人がゐるぞ）

足をふんばつた兵曹長は、携帶灯を船尾になげてさしつけた。人だ。一隅に折れたキャロッタの横に七、八人。半裸によごれきつた手拭で鉢巻をしめた男達が、魚臭い手に鬼丁、スタンションらしい機械、中には日本刀さへ身構へなかも、圓形の光の中に眼をひからしてゐた

（日本人だ）

兵曹長も兵隊も、幾分は豫期してゐたことゝはいひながらとして

ゞなりとも知つて置きたいのだ

『分らんな。どうせ、あまり武裝はない船だらう』

太田兵曹はあらたまつたやうに近寄つた船影をすかしこんだ。あるひは激戰をくりかへしてゐるガダル島附近からまよひ出た敵の海上トラックか何かではなからうか。それでもないとすると、敵か味方かの漁船のわけだが

『しかし、味方の漁船などとすると、手荒い冒險ですな』

『さうだ、船もこまかいし、武裝もしてゐないわけだからな』

『味方の漁船も相當に、遠くまで動いてゐる話でしたが』

『さうだな。さういへば太田兵曹の家も、漁船を持つてゐるんだつたな』

『いや、漁船といつてもほんの名ばかりで』

ほんの瞬間ではあつたが、太田兵曹は大漁旗を揭げた船の、白いしぶきを眼前に見た

船がせまつて來た。兵曹長は固くなり勝ちの自分を、太田兵曹との對話によつて幾分はすくはれたとも考へたが、いざとなつた時の自分の態度に自信がもてなかつた。せめて敵か味方かそれさへ分つてゐたらと、負けをしみにつぶやくのだ

船はぐつとせまつて來た。木造の船だ。白く塗り上げた船體の一部が、夢の中の物語のやうに、ほの白く浮き上つてゐた。じり〳〵として來た兵曹長は、艇指揮の位

置から、すこし腰をかがめた。追ひつめられた思ひが見えてきて、ふつと眼の前が明るくなつた。敵でも味方でもよい。とにかく自分が最初に向ふの船に乗り乗ることだ。危險も何も、それによつて解決がつく

『櫂上げ、櫂立て。櫂をこぐ』

怪力でカッターは水足にすゝんだ。相當ひどく外舷にカッターが接觸した瞬間、兵曹長は立ち上つた。軍刀を腰からぶらんとふ

をはせると、外舷の横木に背足をかけて、尻上りの要領で兵曹長の身體は、向ふの甲板に移つてゐた。接觸の時のゆれと兵曹長が船に移つた反動で、激しくがぶるカッターの中に、思ひがけなく指揮官に先をこされた艇員達は、一齊に立ち上ると鉤を手繰りにして、身を移して來た

重油と魚臭が妙な工合に混合して、なまぬるゝかい空氣をつくり出してゐた

（人がゐる。後部の甲板に人がゐるぞ）

足をふんばつた兵曹長は、携帶灯を船尾になげてさしつけた。人だ。一隅に折れたキャロッタの横に七、八人。半裸によごれきつた手拭で鉢巻をしめた男達が、魚臭い手に鬼丁、スタンションらしい機械、中には日本刀さへ身構へなかも、圓形の光の中に眼をひからしてゐた

（日本人だ）

兵曹長も兵隊も、幾分は豫期してゐたことゝはいひながらとして

ゞなりとも知つて置きたいのだ

『分らんな。どうせ、あまり武裝はない船だらう』

太田兵曹はあらたまつたやうに近寄つた船影をすかしこんだ。あるひは激戰をくりかへしてゐるガダル島附近からまよひ出た敵の海上トラックか何かではなからうか。それでもないとすると、敵か味方かの漁船のわけだが

『しかし、味方の漁船などとすると、手荒い冒險ですな』

『さうだ、船もこまかいし、武裝もしてゐないわけだからな』

『味方の漁船も相當に、遠くまで動いてゐる話でしたが』

『さうだな。さういへば太田兵曹の家も、漁船を持つてゐるんだつたな』

『いや、漁船といつてもほんの名ばかりで』

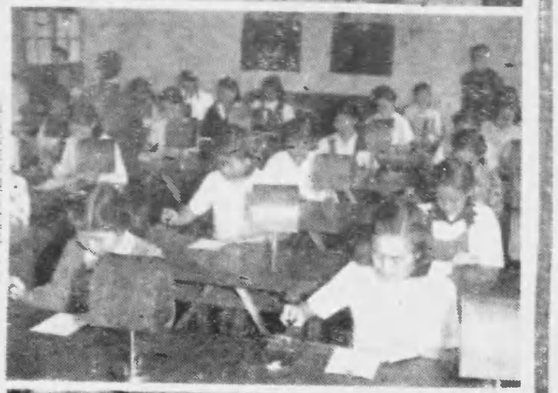
ほんの瞬間ではあつたが、太田兵曹は大漁旗を揭げた船の、白いしぶきを眼前に見た

船がせまつて來た。兵曹長は固くなり勝ちの自分を、太田兵曹との對話によつて幾分はすくはれたとも考へたが、いざとなつた時の自分の態度に自信がもてなかつた。せめて敵か味方かそれさへ分つてゐたらと、負けをしみにつぶやくのだ

船はぐつとせまつて來た。木造の船だ。白く塗り上げた船體の一部が、夢の中の物語のやうに、ほの白く浮き上つてゐた。じり〳〵として來た兵曹長は、艇指揮の位

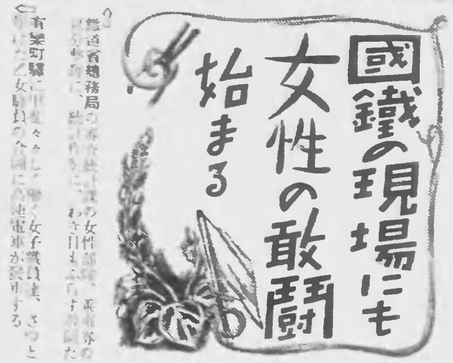
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

國鐵の現場にも女性の敢闘始まる



決戦下の陸海に出撃の日もまぢかい最大限の活動をつゞけてゐる國鐵にも男子職員の命が下つた。出札係、改札係、車掌さんの一部の人々は、男子ならでは果し得ない、より重要な職場へ轉進しようとしてゐるのだ。そして、これに代つて登場するのは、『女性と職場へ』の要請に應じて起ち上つた女性たちだ

この必勝態勢確立のための職場切替へにあたつて、その間、かりにも決戦輸送に一分一秒の遲滯があつては大變と、全鐵道管區には早くもその準備が進められてゐるが、すでに男子職員に代つて現場に立ち、甲斐々々しく勤務してゐる東京鐵道局管内の有楽町驛その他や、男子職員に代替する女子職員の養成訓育に全力を注いでゐる門司鐵道教習所、あるひは、すでに職場を女性にゆづつた男子職員が技術員として立つべく鹿児鐵道教習所の特別增關士養成所に入つて修業する等、必勝國策强化に協力する國鐵の動きこそは、いま國内全般に動きつゝある力强い姿であらう。代りゆく者も、あとをつぐ者も、そこに一片の私心功利の念なく、ひたすら國家の要請に應ずる姿、これこそ前線の將兵と共に闘ふ姿である



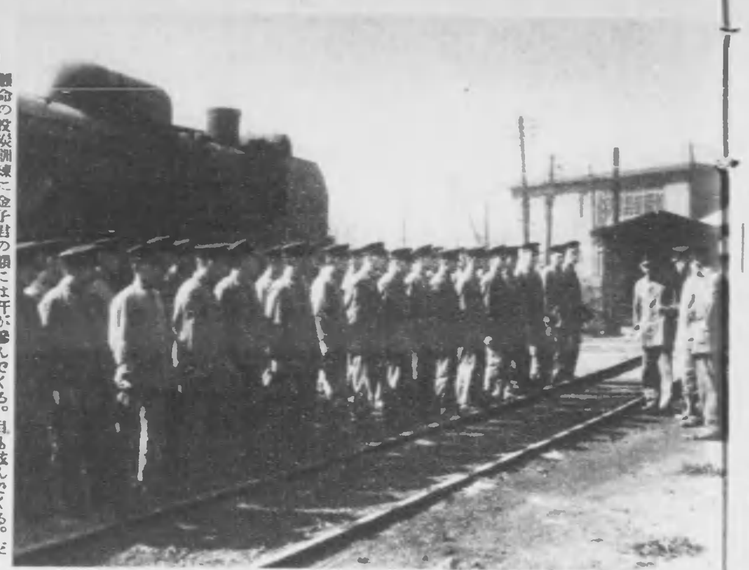
◇鐵道省總務局の考査部第一課の女性部隊、乘車券の自分切りに、熱心作業に、わき目もふらず奮闘だ

◇有楽町驛に甲斐々々しく働く女子職員達、さうとも知らぬ女職員の今後に高速電車が突進する

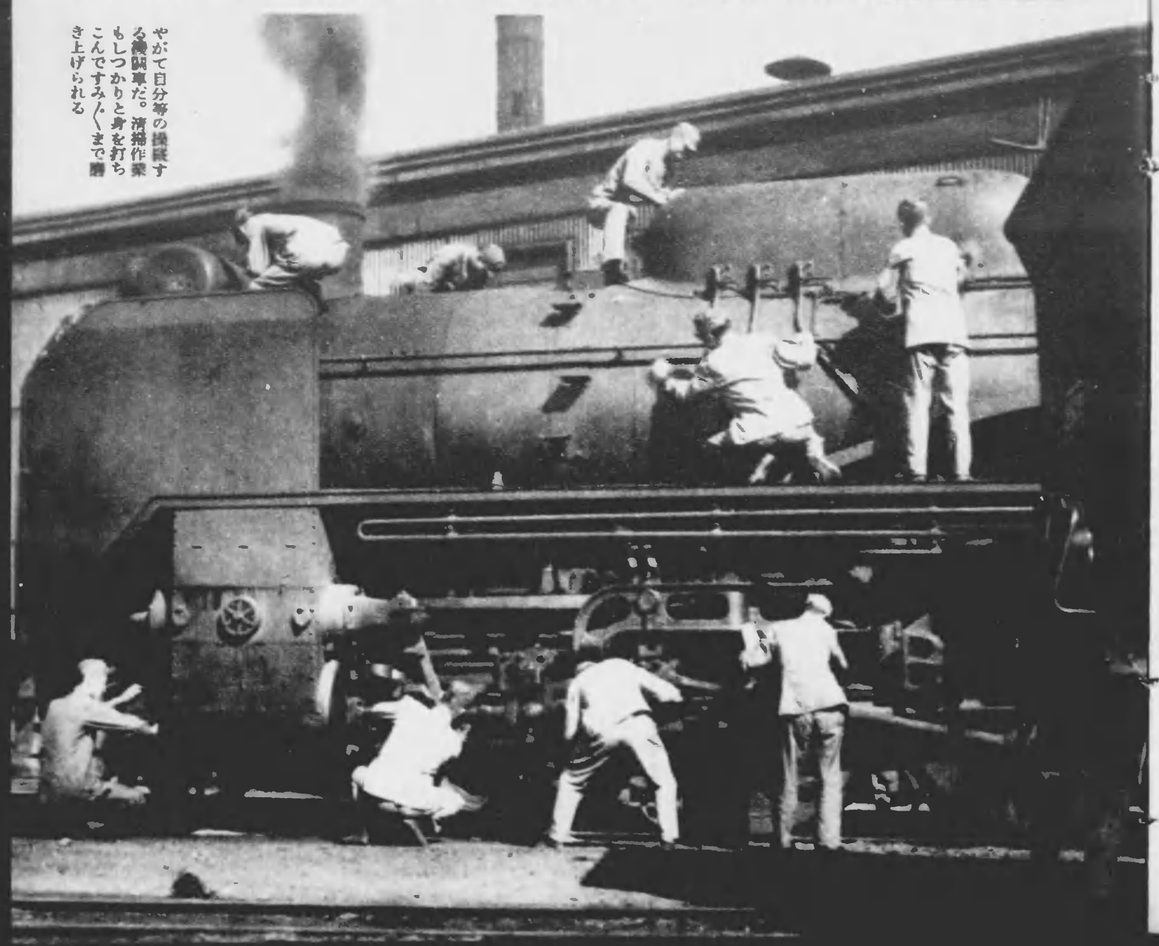
□ あとから〳〵とひつきりなしに復到する乘客を迎へて、乙女改札係の眼はいよ〳〵冴えてゆく——有楽町驛

□ 必要な切符を鋏用に拔き出し、賃金を受取り、お釣を渡す。しかも一錢の間違ひなく、彼女達は女の仕事を立派にとなしてゐる

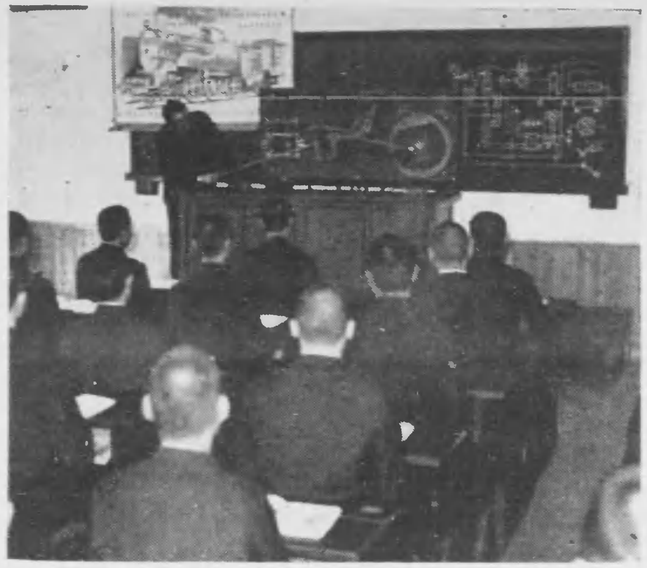
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



⇦ 懸命の投炭訓練に金子君の額には汗が滲んでくる。目も眩んでくる。だがこの訓練に耐へ、得ればこそ、男子として決戦輸送の尖兵となれるのだ



やがて自分等の機関車である機関車だ。清掃作業もしっかりと身を打ちこんですみ〳〵まで磨き上げられる



男子職員は國鐵輸送陣の第一線へ

⇧ 改札係だった金子君（二五）は鋏を女子職員に譲って、機関士としてたつべく特別講習所に入所した

やがて輸送の尖兵として、機関車を駆る金子君の姿は、男子としての満々の自信と誇りに輝いている ⇩

廣島鐵道教習所の特別運転士養成所には一舞き職場かへりみはせじと、出札や改札の仕事をいさぎよく女性にゆづって、國鐵輸送陣の尖兵、機関士となって男子たるの生甲斐に身を捧げようと、嘗ての出札、改札係諸君は、寸暇を惜しみ讀書になって、技術の訓練に、肉體の鍛錬に、激しい修業をつゞけてゐる。やがて決戦型機関車を運轉して、決戦輸送の先頭をきって驀進する雄々しい姿を見せることであらう。こゝにも必勝進撃強化方策の輝かしい勝利がある

⇧ まづ基礎知識の勉強だ。機関車の模型を使って、講師は手馴れた理解できた

くのかをすべて投炭の基本訓練に、金子君の眼はくる〳〵と変化する。だがその頃にはすっかり要領を體得できた

學課を終ってよ〳〵實習となった。機関車の前に整列して教師の注意をきく金子君達はつゝましかに胸を躍らせるのだ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

光線電話機

新兵器の科學3

光と兵器

光を用ひる兵器には、純粋の光學兵器と電氣を併用する電氣光學兵器とがある。特に科學的に興味のあるのは後者であるが、順序として先づ前者から簡單に說明しよう

光學兵器

第一圖は砲隊鏡といつて、プリズムを用ひて對物鏡（物體に對する側のレンズ）を左右に擴げて（双眼の間隔が廣いほど遠近の感じがよく出る）双眼を造り、射擊の時に彈丸が命中したか、或ひは遠近がどの程度かを觀測するために用ひるものである。また、現在軍用双眼鏡としては、對物鏡の直徑が二十センチで、倍率も三十倍程度の優秀なものもあるが、手に持つて見る双眼鏡は倍率が大きいと鏡へて見え難いので、大體、六、七倍位が適當である。第二圖は對空双眼鏡で、飛行機の捜索等に用ひられるものである。また、戰爭が激烈になると、外部に身體を暴露してゐるものはなくなり、或ひはさうでなくとも、遠距離を偵察する際には、目標が水平線の彼方に隱れたり、途中の森林や山に遮られるから、これを觀測するために、プリズムを利用して眼玉だけ高く上げるための觀測鏡といふものができてゐる

ドイツでは、前大戰に既に三十メートルからの高さのものを使つてをり、また、海軍の潜水艦に使つてゐる潜望鏡等もやはり同じやうな意味合ひのものである（第三圖）。更に深く隱れたものに對しては、氣球或ひは飛行機を利用するほかはなく、これにはそれ〴〵特殊の偵察眼鏡ができてゐる。近代の戰場における目標は遠く、僞裝や地形の利用等が巧妙になり、それを發見したり照準したりすることが困難になつてきたばかりでなく、また遠距離目標に對しても射擊を要求されることが多くなつてきたので、小銃や機關銃等にも各種の眼鏡を利用するやうになつてきた。第四圖は小銃用の照準眼鏡である。また、狹い塹壕の中とか、或ひは大砲の防彈の後方で、かりに横や後を狙つて射擊する間接照準のために、そのまゝの姿勢で横や後が見えるやうなパノラマ眼鏡といふものができてゐる

次ぎに距離を測るために、陸軍では測遠機、海軍では測距儀といつてゐるものがある。われ〴〵は兩眼で距離を目測することができるが（片眼ではできないが）、兩眼の間隔は約六十ミリなので甚だ不精確であるから、この兩眼の間隔をづつと擴げてやれば、距離をそれだけ精確に知ることが出來るのである。この意味で測遠機といふのは、一本の長い圓筒を横たへ、その兩端にプリズムを置き、中の左右に二箇の望遠鏡を入れて中央部に覗くところを設けたもので、いろ〴〵のプリズム等のほかに機械裝置があり、兩眼より入つて來た目標像を合はせて、双眼で距離を測定したり、又は一眼で上下に合致させる方式のものもできてゐる。取扱も簡單で、その精度は兩端プリズム間隔（これを基線長といふ）一メートルのものは距離三千メートルで四十メートル位、基線長十メートルのもので一万メートルの距離に同じく四十メートル位の誤差で測定できる。これと同樣の原理に基づくもので、飛行機の高度を測定し得るやうになつてゐるものを測高機と呼んでゐる

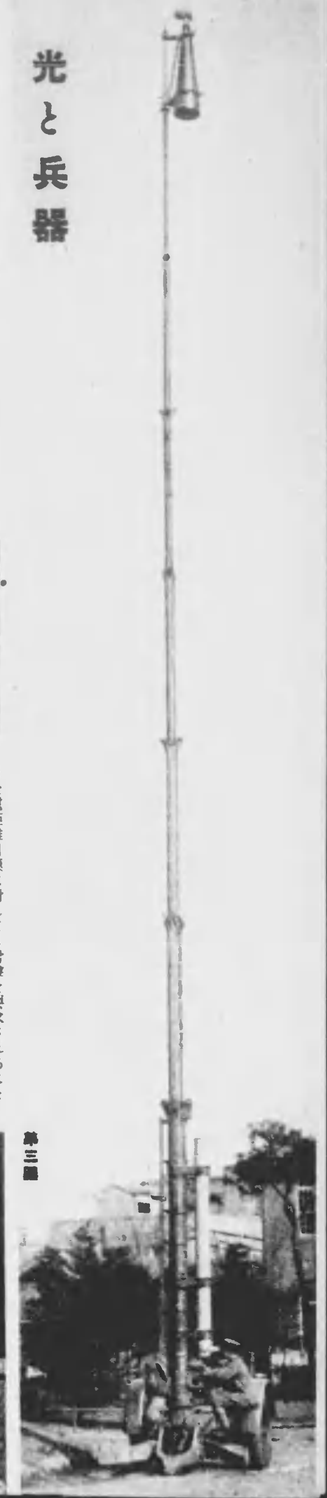
第五圖は寫眞銃といつて、彈丸が精確に目標に的中したかどうかを見るためのもので、試驗射擊等に使はれる。第六圖は最近の外誌に出てゐたもので、高射砲陣地から三キロほど離れた位置にと

第二圖

第四圖

第五圖

第一圖



第三圖

第六圖

第八圖　國光通信機　　第九圖　光線電話機　　第七圖

の戰利を振付けて、高射砲の彈道を映寫するもので、記錄結果は直ちに現像され、砲兵中隊に電話で通達されるやうになつてゐる。圖に見るやうにこのやうな仕事はすべて女子が受持つてゐるのである

電氣光學兵器

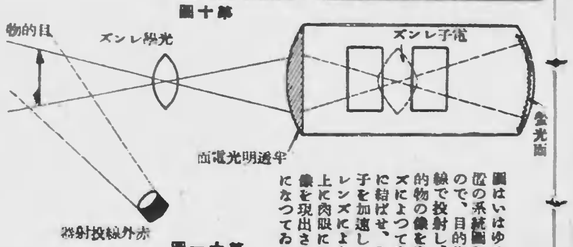
次ぎに、防空に必要な照空灯も光を使ふ主要な兵器であるが、普通のものはさて置き、第七圖は風變りな光芒を放射するイギリスの照空灯で、空襲してきた飛行機を方眼上に標定しようといふものである。第八圖は回光通信機といつて、光の斷滅、または光色の變化、或ひはこの兩者を併用して見通しの出來る南地間で通信を行ふもので、普通、反射鏡を用ひ光束を集めて目標に達するやうになつてをり、光源にはアセチレン、電池等を用ひ、また晝間には太陽光線を利用することもある

不可視光線の利用

戰場で使はれる不可視光線には紫外線と赤外線とがあるが、赤外線の方が多く使はれる。赤外線といふのは、赤色光より波長の大きな光線で、眼に見ることはできないが、霧や雲等をも比較的よく透過する性質を持つてゐる。赤外線は特殊のフィルターを使つて普通の可視光線より簡單に分離することができ、またこれを受信するには光電管といふもので、この赤外線を電流に變へることができるのである。この電流は增幅裝置によつて強大にすることができるから、受話器でモールス符號を聞くこともできるし、さらに肉聲をも再生させることができるわけである。從つて、回光通信機のやうに、この見えない光、即ち赤外線を使つて通信をすれば、秘密保持上、極めて好都合なわけである

第九圖は光線電話機で、可視光線と不可視光線の兩方に使用できるやうに造られてゐる。また夜間望遠鏡といつて、暗夜に遠景を見ることができる裝置もある。これには不可視光線で以て物體を照明しておけばよいので、前記の光電管を利用した望遠鏡で以てこれを覗けば、暗夜でも遠景を見得るわけである。第十一圖は夜間望遠鏡で見た光景である。第十一圖はこの原理を示すものである。このやうに暗くて肉眼だけでは外界の物體を見ることができない場合に、或る手段を講じてこれを見ることを、一般に暗視といつてゐる。この暗視（ノクトビジョン）は、今次戰にも既に使用され始めてゐるやうであり、テレビジョン、或ひは電波兵器と共に科學決戰の樣相を益々深刻化しつゝあるのである

第十圖



第十一圖

圖はいはゆる暗視裝置の系統圖を示すもので、目的物を赤外線で投射し、この目的物の像を光學レンズによつて光電面上に結ばせ、その光電子を加速して、電子レンズにより螢光面上に肉眼にて見得る像を現出させるやうになつてゐる

陸軍兵器行政本部
陸軍兵技中將　塚原和夫

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

愛國貯蓄

貯蓄い　汗

長野縣　山中治義

少しでも多くの食糧を増産しようと、三重縣桑名郡多度村國民學校のヨイコたちは、先生と一緒に荒れ地の開墾に勇命です。この汗の努力が、やがて立派な貯蓄をむすぶことでせう

あつぱれ土俵入り

宮城縣　岩淵友義

宮城縣古川町古川國民學校ではヨイコたちに敢闘精神をたゝき込まうと、横綱相國の指導で花々しく土俵開きをしました。うん、とふんばつて、ギッとばかり、さすがの照國もふうむ、ふうむ

鐵路を護る

愛知縣　太田正勝

すちりと並んだ苗、苗。これは鐵路除草に挺身する愛知縣風來寺家政女學校の乙女たちの青姿です。けなげしい戰ひに大切な物資をはこんでくれる鐵路を護らうと、指先を血にまみらせての勤勞作業です

強い兵隊になるために

長野縣　馬場直一郎

僕等も立派な體をつくるんだと、陽をふびてすつくと立つたヨイコの力づよい姿。これは〝重量運搬運動〟を訓練中の長野縣小縣郡鍋尻國民學校の兒童たちです。ぶつちました五體にたくましい氣魂が見えます

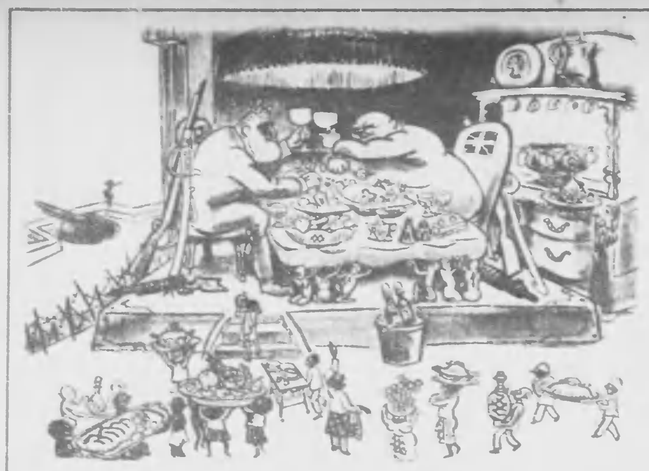
★表紙

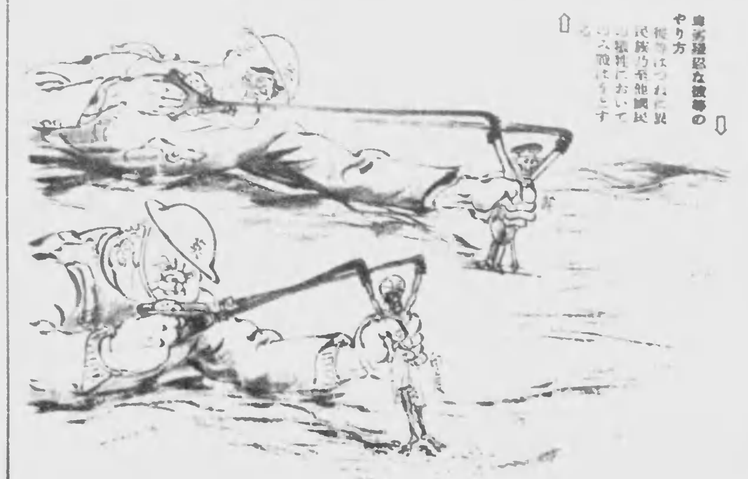
臨時徴兵檢査は十月二十五日から十一月五日まで、入營は十二月一日と決つた

出陣の日まではあとわづか、檢査のこと、入營のことなど、學徒の心は、こんどの決定が思ひがけなかつただけに、感激と緊張のうちにあわたゞしく先の日に駈け出さうとする

たゞ、待て、出陣の準備はよいか、身の鍛錬、心の修練は。晴れの首途のその日まで、一日半刻の間もゆめ無駄にはすまい

（早稲田大學學生の軍事教練）





照準器

⇧ 鬼畜の肉體話
飲酒も依約も勿論はじめつから女吉ス、酒はうまい汁さ、吸へばいゝのだ

⇧ 連夢の非望
無理のオスプレイ
ヨ英米の力
のみにあり、
ヤンガの
リンの
貧鬼
貧鬼のための
の
の
めよと非酒
にも使等は夢
みるのだ

鬼畜米英

宮戸左行

⇧ 卑劣極惡な彼等のやり方
彼等はつねに眞民族乃至他國民の犠牲において己の殺はうとする

大東亞戰爭漫畫日誌

石川進介

ドイツ　ルーマニア　ハンガリー　ブルガリア　ポーランド　ユーゴスラビア　ギリシア　ノルウェー　オランダ　ベルギー　フランス　英国　米国　ソビエト　日本

南鷹新說人殺子の意氣天を衝く

太潮西南方のゲリラ部隊三萬擊滅の新作戰

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

寫眞週報 昭和十八年十月廿一日 第一種郵便物認可 昭和十八年十月廿日印刷 毎週一回金曜日發行 一部 拾九錢

二七の億
貯蓄
總進軍

十五銀行

頭取 入間野武雄

寫眞週報（禁無斷轉載）

昭和十八年十月廿日 印刷發行

編輯者 情報局

印刷者 東京都麹町區永田町一ノ一 内閣印刷局

發行者 東京都麹町區大手町 内閣印刷局

定價

一部十錢（送料一錢）

（外國郵送に依る地域は送料共一部十九錢）

▲特大號の場合は其の都度御拂込金より差額を申受けます

申込所

全國各地官報販賣所

書店・寫眞材料店

新聞販賣店

本誌掲載の寫眞中、撮影者名或ひは提供者名を特に附してないものは財團法人寫眞協會の製作によるものです

又、海軍關係の複寫製は海軍省承認濟第五四二號です

本誌を回覽に

本誌を、講組や職場で回覽するなど、出來るだけ有効に御利用下さい

前線慰問にも

またお讀みになつた本誌を前線慰問に送りませう。送料は內地と同樣で帶封あるひは開封にして第二種と明記すれば、一部一錢です。

（内閣印刷局印刷發行）

（本書は定價A4判規定國はきり大の書本）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/